

鈴木ひとみ市政報告



ごあいさつ

この度の市議会議員選挙では、皆様方に多大なるご支援、お力添えを賜りましたこと、深く感謝致しております。皆様方のご期待にお応え致しますよう、一生懸命に活動していく所存です。今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い致します。

令和元年第2回市議会定例会報告

6月13日、14日、17日の3日間にわたって館山市議会の通告質問が行われました。今回は議員18人中13人が質問に立ちました。13日に行った私の質問から市の解答、私の所見をご報告いたします。

質問1 子育て支援の施策について

Q1 幼稚園と保育園の定員数の見直しは進んでいるでしょうか？

A こども園の長時間児と短時間児の定員を見直した。

Q2 市立幼稚園の三歳児クラス、及びこども園の三歳児の短時間枠を新設すべきと考えますが、いかがでしょうか？

A クラス相当数の職員が必要なため、困難な状況です。

Q3 未就園児の一時保育を拡充して、緊急の場合にも対応できるようにすべきと考えますが、いかがでしょうか？

A 「子ども・子育て支援事業計画」の中で検討していきます。

Q4 学童クラブの定員見直しを行い、増員されたそうですが、今年の夏休みの見通しはどうなっているのか伺います。

A おおむね30人程度の追加受け入れができるよう、対応することとしました。特にサービスの必要な小学校低学年児童の受け入れは改善できると考えています。



核家族化が進む中、子育て支援の充実は必須となっています。中でも小学校入学前の幼児期の教育の大切さは、人格形成の基礎を培うものとして、改正教育基本法の中でもうたわれています。ですが、館山市の3歳児の受け皿は保育園と私立幼稚園1園のみであるので、3歳児の就園率は56%で、全国的にほぼ90%であるのに対して大変

低くなっています。平成17年度の文科省の中央審議会による「子供を取り巻く環境の変化を踏まえた今後の幼児教育の在り方について



の答申」の中での、「入園を希望するすべての満3歳児から5歳児の就園を目標に、幼稚園等の整備を進める」とあります。館山市の保育園の条件に満たない3歳児も幼児教育の機会を与えられるべきです。これからも強く要望していきたいと考えます。

質問2 郊外地域での高齢者の生活支援について

Q1 郊外地域に居住する高齢者の免許返納後の買い物、医療の環境確保、移動手段について市としてどう考え、今後、どのようにして検討を進めていくのか？

A 地域包括ケアシステムの構築により解決していこうと考えている。様々な地域の事情があり、すべての地区が同じようには進みませんが、これからも社会福祉協議会、地域包括支援センター、行政及び地域住民とが一体となって、地域にあった地域包括ケアシステムの構築に向けた「地域づくり」に取り組んでいきます。



高齢者の交通事故が増える中、免許返納を進めていくことが大きな課題です。しかし、免許返納後の生活を支える仕組みを作らなければ、翌日から買い物も通院も困難となります。地域任せ、ボランティアだよりではなく、市がしっかりとかわって継続可能な仕組みを作っていくことが大切です。尚、高齢者の事故防止のため、踏み間違い防止装置への補助も今後検討されます。